

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																							
新東京歯科技工士学校		平成22年4月1日		福原 達郎		〒143-0016 東京都大田区大森北一丁目18番2号 (電話) 03-3763-2211																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																							
学校法人 東京滋慶学園		昭和61年2月1日		中村 道雄		〒143-0016 東京都大田区大森北一丁目18番2号 (電話) 03-3763-2211																							
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																						
医療	歯科技工士 専門課程	歯科技工士科Ⅱ部				平成22年文部科学省告示 第五十三号																							
学科の目的	知識・技術・主体性を兼ね備え、業界で必要とされる歯科技工士を養成する。																												
認定年月日	平成26年 3月31日																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																						
3年	夜間	2085時間	720時間	45時間	1320時間	0時間	0時間																						
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)		専任教員数	兼任教員数	総教員数																							
105人	44人	0人		5人	16人	21人																							
学期制度	■前期:4月1日~9月30日 ■後期:10月1日~翌3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 筆記試験、口頭試験、実技試験、論文あるいはレポートで行う。																								
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:8月の3週間 ■冬季:12月下旬~翌年1月の2週間 ■学年末:3月の3週間			卒業・進級 条件	■1つの学期ごとに全科目A~D評価を得た者。 ■卒業時まで全科目を履修し、学年ごとに必修単位数を取得し、学校長が適当と認められた者。																								
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任から家庭への定期的な電話連絡の他に、必要に応じて、個人面談、三者面談を実施する。			課外活動	■課外活動の種類 ・歯科技工士会と連携した 研修会の開催 ・各種講習会、デモンション、学会の参加 ■サークル活動: 有																								
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 歯科技工所、歯科診療所、歯科機材メーカー ■就職指導内容 学内合同就職説明会や人事採用ご担当者を招き、情報提供に努めている。 ■卒業生数 11 人 ■就職希望者数 10 人 ■就職者数 10 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 90.9 % ■その他 ・進学者数 1名 (平成 30 年度卒業生に関する 平成31年5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する平成31年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歯科技工士免許</td> <td>②</td> <td>11人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 第19回歯型彫刻コンテスト『ほるほる』 奨励賞:星 琴絵					資格・検定名	種	受験者数	合格者数	歯科技工士免許	②	11人	11人												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																										
歯科技工士免許	②	11人	11人																										
中途退学 の現状	■中途退学者 3 名 平成30年4月1日時点において、在学者44名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者41名(平成31年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 病氣、進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 電話連絡・個人面談・三者面談実施及びSSC(学校カウンセラー)との連携強化			■中退率 6.8 %																									
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待生制度(入学前の成績優秀者への学費減免)・スカラシップ制度(在校生向け学校独自指標優秀者への学費減免) ・被災罹災者学費減免 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象外																												
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																												
当該学科の ホームページ URL	URL:http://www.dt.ntdent.ac.jp																												

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界が求める人材要件(知識・技術・人間性等)を明確にし、企業・業界団体等の意見を活かし、必要となる最新の知識・技術を反映するための場とし、次年度カリキュラムに活かしていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員規程 第7条に基づき、委員長は、学校が編成した教育課程案を委員会に付議し、委員会による改善意見を学校長に報告しなければならない。また、学校長は、前項の報告を活かした教育課程を決定し、委員会に告知するものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
西澤 隆廣	公益社団法人日本歯科技工士会	平成30年4月1日～令和2年3月31日	①②
菅沼 佳一郎	株式会社 三和デンタル(大田区)	平成30年4月1日～令和2年3月31日	③
森野 隆	公益社団法人日本歯科技工士会	平成30年4月1日～令和2年3月31日	①②
星野 世一	株式会社 ワールドラボ	平成30年4月1日～令和2年3月31日	③
福原 達郎	新東京歯科技工士学校 学校長	平成30年4月1日～令和2年3月31日	
三觜 雅子	新東京歯科衛生士学校 副学校長	平成30年4月1日～令和2年3月31日	
高平 敦	新東京歯科技工士学校 事務局長	平成30年4月1日～令和2年3月31日	
今井 リカ	新東京歯科技工士学校 教務部長	平成30年4月1日～令和2年3月31日	
小島 三知長	新東京歯科技工士学校 学部長	平成30年4月1日～令和2年3月31日	
富野 浩子	新東京歯科技工士学校 学科長	平成30年4月1日～令和2年3月31日	

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回 5月 11月

(開催日時)

第1回 令和元年5月28日 17:00～18:30

第2回 令和元年11月26日予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

①早期離職を防止するために、卒業後2ヶ月後(5月下旬)に、同窓会に協力を得て同期会を実施。

勤労意欲増進および学校への帰属意識を強固にし、明日から活かせる技術セミナーを開催。

②コミュニケーション力の向上、また正しい情報の発信や収集を学ぶ目的で「コミュニケーション基礎」を科目に追加した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

在学中に、様々な臨床実習や歯科技工士の働き方を知ることにより、卒業後の進路決定や将来像の参考になるような機会とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

キャリアデザインⅠでは連携している企業の歯科技工士、歯科医師に來校していただき、実際にどのような働き方をしているか、歯科治療における歯科医師、歯科技工士の連携について講演していただいている。

キャリアデザインⅡでは連携している企業の経営者側の方に來校していただき、どのような人材が企業にとって必要か、講演していただいている。受講後学生はレポートを提出し、その内容により評価を行っている。

デジタル歯科技工概論Ⅰでは、歯科器材メーカーの歯科技工士の方に來校していただき、メーカーごとのデジタルに対する取り組み、今後の動向について、講演していただいている。

デジタル歯科技工概論Ⅱでは、歯科技工所の歯科技工士の方に來校していただき、実際に歯科技工所でどのようにデジタル歯科技工を取り入れているか、講演していただいている。受講後学生はレポートを提出し、その内容により評価を行っている。

デジタル歯科技工実習では、過去から現在、未来への歯科技工のデジタル化の流れをレクチャーいただき、本校のCAD/CAMシステムを用いて、実際に補綴物をデザイン、削りだしを行い、技工物を製作する。完成後その作品によって評価を行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
デジタル歯科技工Ⅱ	CAD/CAMなどの最先端のデジタル歯科技工技術について学ぶ。また、CAD/CAM操作を体験し、デジタル歯科技工に対応できる現場力を養う。	アスパイア 難羽 康博
キャリアデザインⅠ・Ⅱ	様々な臨床現場や歯科技工士の働き方を知り将来像を明確にする。また、歯科技工所の開業・経営やCAD/CAMなどの最先端の技術について学ぶ。	(株)三和デンタル、(株)和田精密、(株)中央歯科補綴研究所
歯冠修復技工学総合	陶材（ポーセレン）の取り扱い方、陶材焼付金属冠等について学ぶ。また、歯冠修復技工学について総合的に復習する。	ノーベル・バイオケア・ジャパン(株)
臨床歯科技工学	臨床現場で必要とされる知識、技術について総合的に学ぶ。	一般社団法人 東京都歯科技工士会
セラミック加工応用実習	マージンポーセレン及び内部ステインテクニックで、審美的な陶材焼付金属冠を製作する。	(株)オーリアラ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

業界と連携し、学会発表のための共同研究や企業主催の研修に積極的に参加する。
学部長、学科長中心に年間の研修を企画し、上記の研究成果や研修で得られた知識を学内で共有する。

※教員研修規程からの抜粋

第2条 研修は、教員の授業内容・方法及びクラス運営方法を改善し向上させるとともに、マネジメント能力を含む指導力の習得、向上させるために行う。

第4条 法人本部並びに学校は、教員の研修計画を策定、実施し、教員に研修を受ける機会を与えなければならない。

2 法人本部または学校が必要と認めるとき、他の機関と共同または委託し、研修を行うことができる。

第6条 教員は、日常の勤務を通し必要な研修を受けるものとする。

2 日常勤務を通した研修は、教員の監督者がその計画を策定、実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

【第8回 日本国際歯科大会 2018】

対象専任教員

主催：クインテッセンス出版株式会社

併催：第8回 ワールドデンタルショー2018

内容：4年に一度開催される、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士による国際シンポジウムと国内最大級のデンタルショー

期間：10月5日～6日

最新の歯科事情や国内外の歯科症例。また最新の歯科機器・材料を知り、教育に活かす。

【歯科技工士実習施設指導者等養成講習会 応用コース】

対象：専任教員

主催：全国歯科技工士教育協議会

内容：CAD/CAMシステムの学校授業での活用法

期間：12月1日、2日

基本的なCAD操作手順を習得、口腔内スキャナー・3Dプリンターについて学ぶ。

【スキャナー説明会】

対象：専任教員

主催：デンタルネットコミュニティ

内容：CAD/CAM、スキャナーとCAM機、エクゾCAD

期間：1月30日

デジタルコースを担当する教員の技術向上を目指し教育に活かす。

【スポーツ歯科医学会】

対象：専任教員(スポーツ担当教員2名)

主催：一般社団法人日本スポーツ歯科医学会

内容：スポーツ歯科の事例発表、研究発表など

期間：6月23日、24日

スポーツ歯学について業界の動向や最新の研究事例を習得し、コース別実習授業の教育に活かす。

また、スポーツ技工コース授業での取り組みを事例発表している。発表内容については、学会員である歯科医師を顧問として招聘し、指導をして頂いている。

②指導力の修得・向上のための研修等

【特別講義：歯科技工士教育に必要とされるコミュニケーション力 ～もっと顔で話そう・声で話そう～】

対象：教務部長、学科長

主催：全国歯科技工士教育協議会（演者 有限会社コーディアル 代表取締役 坪井 まり子先生）

内容：オリジナルレジュメに添って教員自身が記入を行うことで結論を導き出す。

期間：5月17日

学生との良好なコミュニケーションを日々の授業の中でとり、将来に不安を持つ学生たちの気持ちを下支えするために活用する。

【国家試験対策研修会】

主催：滋慶学園グループ 国家試験対策センター

内容：医療・福祉系国家試験の問題傾向と合格対策について、報告と事例発表など

期間：7月13日

国家試験の最新の結果と問題傾向を検証結果を情報収集し、国家試験全員合格に向けての対策を検討する際の参考にする。

【進路アドバイザー研修】

対象：専任教員

主催：滋慶教育科学研究所

内容：学校生活不全を訴える学生に対して進路変更を検討・推進する担当者を養成する。

期間：7月10日

進路変更のコンサルティングスキルを学び、資格取得し活用していく。

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

【歯科医師と歯科技工士の交流会】

対象：専任教員

主催：（一社）日本臨床歯科CAD/CAM学会 関東甲信越部

内容：CAD/CAMをキーワードに歯科医療に関わる人と歯科界の今後を考える。

期間：10月27日

得た情報や意見取り入れ、教育に取り入れる。

【専任教員講習会Ⅱ】

対象：専任教員

主催：全国歯科技工士教育協議会

内容：

期間：8月19日～8月20日

学生指導、コーチング、研究技法の基礎、医療倫理など学び教育に活かしていく。

②指導力の修得・向上のための研修等

【専任教員講習会Ⅰ】

対象：専任教員

主催：全国歯科技工士教育協議会

内容：教育者としての資質向上を図るための基本的な知識・技術・態度を修得する。

期間：8月22日～8月23日

カリキュラムプランニングや評価法を学び教育に活かしていく。

【専任教員講習会Ⅱ】

対象：専任教員

主催：全国歯科技工士教育協議会

内容：

期間：8月19日～8月20日

学生指導、コーチング、研究技法の基礎、医療倫理など学び教育に活かしていく。

【ルーブリック評価法研修】※学内研修

対象：専任教員

講師：授業改革担当教員

内容：ルーブリック評価法を活用した授業評価の事例発表と作成

期間：必要に応じて不定期に実施予定

明確な評価を明示するため、すべての科目でルーブリック評価表を作成し活用法を学び実践につなげる。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、各校に学校関係者評価委員会を置く。評価委員会は、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、学校の利害関係者の学校運営への理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

高等学校の関係者より学校の重点的な取組であるアクティブラーニングについて高い評価を頂いた。その評価を基に効果が見込まれる科目に展開できるよう段階的に取組むことになった。卒業生代表より卒業生を対象にした生涯学習の充実について意見を頂いた。その意見を基に同窓会と連携をして、若手の歯科技工士を対象にした実技セミナーを開催した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
五十嵐 智	コレクトデザイン	平成30年4月1日～令和2年3月31日	卒業生
根目沢 順子	保護者	平成30年4月1日～令和2年3月31日	保護者
阿部 隆一	元法政大学中学・高等学校 講師	平成30年4月1日～令和2年3月31日	高等学校
塩津 二郎	大田区蒲田歯科医師会	平成30年4月1日～令和2年3月31日	地域等委
今井 久二	和田精密歯株式会社	平成30年4月1日～令和2年3月31日	企業等委

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: <http://www.dt.ntdent.ac.jp>

令和元年7月末日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

歯科業界の動向や最新の技術について情報提供していただき、カリキュラムの見直しを図る。また、学生の進路決定や将来の目標設定させる際の参考とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	各学科等の教育
(3) 教職員	教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	国際連携の状況
(11) その他	その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.dt.ntdent.ac.jp>

授業科目等の概要

(歯科技工士専門課程歯科技工士学科Ⅱ部) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			導入教育 Introductory education	学校生活に必要なルールや心構えについて確認し、学校長講演等を通じて、職業特性への理解を深めることを目標とする。	1年次 前期	15	1	○	○				○		
○			コミュニケーション 基礎 Communication Science	情報リテラシーを理解し、インターネットやSNSで得た情報を授業に活用することが出来ることを目標とする。	1年次 前期	15	1	○	○				○		
○			造形美術概論 Compendium of Art of Dental Technology	形態の見方や表現方法の基礎を学ぶ。演習を通じて歯科技工に必要な立体的形態の表現力を養うことを目標とする。	1年次 前期	15	1	○	○		○		○		
○			歯科英語 English for Dental Technology	歯科専門用語を日本語と同時に英語で学ぶ。英語による歯科専門用語の習得を目標とする。	1年次 後期	15	1	○			○			○	
○			英会話入門 Basic Skills for English Conversation	あいさつや、Web検索方法、海外の展示会などで用いる主な表現を学び、英語で簡単なコミュニケーションが図れることを目標とする。	2年次 前期	15	1	○			○			○	
○			歯科技工学概論 Compendium of Dental Technology Science	歯科医療に関する基礎知識、歯科技工の重要性及び歯科技工物についての概要理解を目標とする。	1年次 前期	15	1	○			○		○		
○			キャリアデザインⅠ Career DesignⅠ	様々な臨床現場や働き方、就職活動に必要なスキルを学ぶ。授業を通じて自分の将来像を明確にすることを目標とする。	2年次 前期	15	1	○			○		○	○	○
○			キャリアデザインⅡ Career DesignⅡ	キャリアデザインⅠでの学びをキャリア形成に活用する。業界動向の諸事例を元に、進路決定に向けて具体的な活動が出来ることを目標とする。	3年次 前期	15	1	○			○		○	○	○
○			歯科技工士関係法規 Dental Technologist Applicable Laws and Regulations	歯科技工士として業務を行うために必要な「歯科技工士法」を中心に、歯科医療に関する法律への理解と遵守を目標とする。	3年次 前期	15	1	○			○		○		
○			歯の解剖学基礎Ⅰ・Ⅱ Dental Anatomy -BasicⅠ・Ⅱ	歯と歯列及び口腔の概説と永久歯の形態的特徴を学ぶ。すべての永久歯を鑑別できることを目標とする。	1年次 前期	30	2	○			○		○		
○			歯の解剖学応用Ⅰ・Ⅱ Dental Anatomy -Advanced	口腔機能、特に頭蓋骨の構造や咀嚼機能に関する基本的な知識を理解することを目標とする。	2年次 後期	30	2	○			○		○		

○		歯の解剖学総合 Dental Anatomy	歯の発生機構、硬組織及び歯周組織について、構造と経年変化を理解することを目標とする。	3年次前期	15	1	○			○			○					
○		歯型彫刻基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ Basic Training of Dental CarvingⅠ・Ⅱ・Ⅲ	歯型彫刻に必要な器具の使い方及び永久歯の形態的特徴について学ぶ。デッサンと彫刻作品の製作実習を通じて理解することを目標とする。	1年次前期	90	3				○	○			○	○			
○		歯型彫刻基礎Ⅳ Basic Training of Dental CarvingⅣ	デッサンと歯型彫刻の技術向上を目指す。歯の形態的特徴を、見本を用いて規定時間内に表現できることを目標とする。	1年次後期	30	1				○	○			○	○			
○		歯型彫刻応用Ⅰ Advanced Training of Dental CarvingⅠ	歯のデッサンや歯型彫刻の反復練習を通じて、歯の特徴について知識確認を行う。指定した歯種の形態的特徴を表現できることを目標とする。	2年次前期	30	1				○	○			○	○			
○		歯型彫刻応用Ⅱ Advanced Training of Dental CarvingⅡ	歯のデッサンや歯型彫刻の反復練習を通じて、歯の特徴について知識確認を行う。指定した歯種の形態的特徴を細部にわたり表現できることを目標とする。	2年次後期	30	1				○	○			○	○			
○		顎口腔機能学基礎 Stomatognathic Function Science-Basic	下顎運動の概要を学び、歯科技工物の製作に必要な咬合に関する基礎知識の理解を目標とする。	1年次後期	15	1	○				○				○			
○		顎口腔機能学応用 Stomatognathic Function Science-Advanced	様々な咬合位を理解し実習授業にその知識を活用できる。また、咬合器の使用目的や取り扱い方法について理解することを目標とする。	2年次前期	15	1	○				○				○			
○		顎口腔機能学実践 Training of Stomatognathic Function Science	フェイスボウトランスファー体験を通じて、半調節性咬合器の取扱い方を習得し、治療と技工操作の関連を理解することを目標とする。	1年次後期	30	1				○	○				○	○		
○		歯科理工学基礎Ⅰ・Ⅱ Dental Materials Science-BasicⅠ・Ⅱ	歯科材料全般の特性や性質、材料試験について理解し、理論に基づいた取り扱いができることを目標とする。	1年次前期	30	2	○				○					○		
○		歯科理工学基礎Ⅲ Dental Materials Science-BasicⅢ	歯科用金属材料について、その種類と性質を様々な視点から理解し、理論に基づいた取り扱いが出来ることを目標とする。	1年次後期	15	1	○				○				○	○		
○		歯科理工学基礎Ⅳ・Ⅴ Dental Materials Science-BasicⅣ・Ⅴ	歯科精密鑄造に用いる材料と器材の特性について様々な視点から理解し、理論に基づいた取り扱いができることを目標とする。	2年次前期	30	2	○											
○		歯科理工学総合 Dental Materials Science	高分子、セラミックス及び複合材料の種類と性質を理解することができる。また、国家試験過去問題を活用し、既習事項の理解を目標とする。	3年次前期	15	1	○				○				○	○		
○		歯科材料加工実習 Ⅰ・Ⅱ Practice of Dental Material Processing Ⅰ・Ⅱ	歯科技工士が扱う材料や機器の取り扱いについて学ぶ。様々な実習体験を通じて技工の基本操作の理解を深めることを目標とする。	1年次前期	60	2				○	○				○	○		
○		デジタル歯科技工基礎 Digital Dental Technology-Basic	最先端のデジタル歯科技工技術について、臨床現場で導入されているシステムを事例に基本的事項を理解することを目標とする。	2年次前期	15	1	○				○				○	○	○	

○		デジタル歯科技工応用 Digital Dental Technology-Advanced	臨床現場で導入されているシステムを事例に、現状と今後の展望、これからの課題について理解することを目標とする。	2年次 後期	15	1	○				○		○	○	○
○		デジタル歯科技工実習 Training of Digital Dental Technology	CAD/CAM操作を体験し、現場の業務に必要な基礎技術に挑戦し、理解することを目標とする。	3年次 前期	30	1					○	○		○	○
○		部分床義歯技工学 I・II・III Partial Denture Prosthetics I・II・III	部分床義歯について学ぶ。基礎知識から応用まで、理論や製作手順について理解することを目標とする。	1年次 後期	45	3	○				○			○	
○		全部床義歯技工学 I・II Complete Denture Prosthetics I・II	全部床義歯について学ぶ。基礎知識から応用まで、理論や製作手順について理解することを目標とする。	2年次 後期	30	2	○				○			○	
○		有床義歯技工学総合 Dental Technology of Denture	金属床部分義歯の製作に関する諸理論について学ぶ。関連事項の知識を振り返り、総合的な復習を行うことを目標とする。	3年次 前期	15	1	○				○			○	
○		部分床義歯基礎実習 I・II・III・IV Basic Training of Partial Denture Techniques I・II・III・IV	部分床義歯製作の理論及び基礎技術について製作を通じて確認できることを目標とする。	1年次 後期	##	4					○	○		○	○
○		部分床義歯基礎実習V Basic Training of Partial Denture Techniques V	部分床義歯製作に必要な、個人トレー及び咬合床の製作方法を実習を通じて、確認できることを目標とする。	2年次 後期	30	1					○	○		○	○
○		全部床義歯基礎実習 I・II・III Basic Training of Complete Denture Techniques I・II・III	全部床義歯製作の理論及び基礎技術について製作を通じて確認できることを目標とする。	2年次 後期	90	3					○	○		○	○
○		有床義歯応用実習 I・II Advanced Training of Denture Techniques I・II	金属床義歯の理論及び基礎技術について製作を通じて、確認できることを目標とする。	3年次 前期	60	2					○	○		○	○
○		有床義歯総合実習 Denture Techniques	全国歯科技工士教育協議会実技評価試験の課題を反復練習し、時間短縮できることを目標とする。	3年次 後期	30	1					○	○		○	○
○		歯冠修復技工学基礎 I・II Restorative Dentistry-Basic I・II	科目全般の概要、歯科保存治療に用いるインレーや全部金属冠等の各種補綴物について要件や製作順序の理解を目標とする。	1年次 前期	30	2	○				○			○	
○		歯冠修復技工学応用 I・II Restorative Dentistry Advanced I・II	歯科診療と製作の連携を学び、間接法について復習する。また、大きな欠損にも対応できる補綴物について要件や製作手順の理解を目標とする。	2年次 前期	30	2	○				○			○	○
○		歯冠修復技工学総合 Restorative Dentistry	陶材焼付金属冠の製作に関する理論とその技術について学び、製作手順の理解を目標とする。	3年次 前期	15	1	○				○			○	
○		スポーツ歯学概論 Compendium of Sports Dentistry	スポーツ歯学及びスポーツマウスガードの役割を学ぶ。特にスポーツマウスガードの製作手順を理解することを目標とする。	2年次 前期	15	1	○				○			○	○

○		臨床歯科技工学 Clinical Dental Technology	感染症やインプラント、最新歯科医療機器など、先端歯科医療情報について理解を深めることを目標とする。	3年次 前期	15	1	○			○		○	○	
○		歯冠修復基礎実習 I・II・III Basic Training of Restorative Dentistry I・II・III	模型の正しい取り扱い方法や補綴物の製作方法を学ぶ。全部金属冠やインレーの製作を通じて、製作手順及び歯の解剖学的形態を理解することを目標とする。	1年次 前期	90	3				○	○		○	○
○		歯冠修復応用実習 I・II・III・IV Advanced Training of Restorative Dentistry I・II・III・IV	臨床複模型を用いて様々な模型の取り扱い方法や補綴物の製作方法を学ぶ。ブリッジの製作、技工操作の反復練習を通じて、実践力の向上を目標とする。	2年次 前期	120	4				○	○		○	○
○		歯冠修復総合実習 Restorative Dentistry Techniques	全国歯科技工士教育協議会実技評価試験の課題を反復練習し、時間短縮できることを目標とする。	3年次 後期	30	1				○	○		○	○
○		矯正歯科技工学総論 Principles of Orthodontics	矯正歯科治療の概要及び技工用器具と器械、材料や技工の手技について理解できることを目標とする。	2年次 後期	15	1	○				○		○	○
○		矯正歯科技工学各論 Particular Theories of Orthodontics	各種矯正装置の役割や分類方法を学び、製作法の理解を深めることを目標とする。	2年次 後期	15	1	○				○		○	○
○		矯正歯科技工実習 Practical Training of Orthodontics	矯正装置の製作方法について、製作実習を通じて理解を深めることを目標とする。	2年次 後期	30	1				○	○		○	○
○		小児歯科技工学総論 Principles of Pedodontics	小児歯科で用いる装置の製作に必要な小児期の成長発育の特徴を学ぶ。特に歯列の成長発育について理解できることを目標とする。	1年次 後期	15	1	○				○		○	○
○		小児歯科技工学各論 Particular Theories of Pedodontics	小児歯科で用いられる歯冠修復物や各種咬合誘導装置について、その製作方法と理論を理解することを目標とする。	1年次 後期	15	1	○				○		○	○
○		小児歯科技工実習 Practical Training of Pedodontics	小児歯科技工に必要な基本的な歯科技工技術を学び、装置の製作を通して理解することを目標とする。	1年次 後期	30	1				○	○		○	○
○		歯科技工実習 I・II・III Dental Technology Practical Training I・II・III	レジン前装冠製作、既習技能の確認を行う。課題制作や反復練習では学生自ら今後の課題を設定し、技術向上に活かすことを目標とする。	2年次 前期	90	3				○	○		○	○
○		歯科技工実習IV Dental Technology Practical TrainingIV	全国歯科技工士教育協議会実技評価試験で用いる模型製作及び課題の反復練習を行う。実践力の向上を目標とする。	2年次 後期	30	1				○	○		○	○
○		セラミック加工基礎実習 I・II Basic Training of Ceramic Processing Techniques I・II	陶材焼付金属冠の製作を通して、手順、材料の取り扱い、形態再現について理解することを目標とする。	3年次 前期	60	2				○	○		○	○

○		セラミック加工応用実習 Advanced Training of ceramic Processing Techniques	審美的要件を備えた陶材焼付金属冠の製作を行う。 様々な応用技術に挑戦することを通じて理解すること を目標とする。	3年次 前期	30	1				○	○			○	○
○		課題研究実習Ⅰ Research and Professional PracticeⅠ	既習事項を結集、成長に必要な課題を自ら設定し、 それに基づいた作品を決定できる。計画通りに製作 を進めることを目標とする。	3年次 前期	30	1				○	○			○	○
○		課題研究実習Ⅱ Research and Professional PracticeⅡ	作品の完成を通じて専門性を磨き、レポートを用い て課題設定に対する検証を行うことができることを 目標とする。	3年次 後期	30	1				○	○			○	○
○		歯科技工実習総合Ⅰ Training of Dental TechnologyⅠ	各種実技試験に合格できる基礎技術を反復練習に よって身につけることを目標とする。	3年次 前期	30	1				○	○			○	○
○		歯科技工実習総合 Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ Training of Dental TechnologyⅡ・Ⅲ・Ⅳ	全国歯科技工士教育協議会実技評価試験や歯科技工 士国家試験に必要な技術を反復練習を通じて向上さ せることを目標とする。	3年次 後期	90	3				○	○			○	○
○		総合歯科技工学Ⅰ Dental TechnologyⅠ	主要科目の模試と講義を通じて総合的な基礎力を確 認し、知識を深めることを目標とする。	2年次 後期	30	2	○				○			○	○
○		総合歯科技工学Ⅱ Dental TechnologyⅡ	専門基礎科目を中心に、模試と講義を通じて総合的 な基礎力を確認し、知識を深めることを目標とす る。	3年次 前期	30	2	○				○			○	
○		総合歯科技工学Ⅲ Dental TechnologyⅢ	模試と講義を通じて歯科技工士として必要な知識の 定着と、応用問題に対応できることを目標とする。	3年次 後期	90	6	○				○			○	
合計					49	科目	2085時間(95単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
学年ごとに必須単位数を修得し進級する。 全科目履修で卒業となる。		1学年の学期区分	前期・後期
		1学期の授業期間	27週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。